

サブスローガン **生かそう憲法、なくそう格差と貧困、築こう社会保障充実の基盤を**

参加諸費 2日間参加・・・5,000円 ※鹿児島県内の地域住民・・・500円
1日のみ参加・・・2,500円 ※学生・・・・・・・・・・・・・無料

1日目 **6/12** 金 **記念講演 14:10~** 宝山ホール(鹿児島県文化センター)

社会保障改革の新段階と対抗運動の展望 ～医療・介護・社会保障の充実を～

鹿児島大学法科大学院教授 **伊藤 周平**先生



1960年山口県生まれ。鹿児島大学法科大学院教授。専攻は社会保障法、社会保障論。
東京大学大学院社会学研究科博士課程単位取得退学。労働省(現厚生労働省)事務官、社会保障研究所(現国立社会保障・人口問題研究所)研究員、法政大学助教授、九州大学助教授を経て、2004年4月より現職。
著書に「介護保険法と権利保障」(法律文化社、日本社会福祉学会学術賞受賞)、「後期高齢者医療制度—高齢者からはじまる社会保障の崩壊」(平凡社新書)、「障害者自立支援法と権利保障—高齢者・障害者総合福祉法に向けて」(明石書店)、「雇用崩壊と社会保障」(平凡社新書)、「子ども・子育て支援法と保育のゆくえ」(かもがわ出版)などがある。

特別報告 16:15~

いま、子どもたちのいのちをみつめる…

東京電力福島第一原発事故の現状と健康障がい

医療法人孝星会 ますみクリニック **青山 浩一**先生

1961年生まれ。久留米大学卒。鹿児島大学第三内科入局。県立大島病院や鹿児島市立病院などで研修。1994年ますみクリニック開設。

分科会レポート募集中

- 内容 分科会の問題提起に沿って日頃の実践をまとめてください。
 - 提出先 第42回 医療研究全国集会組織委員会 ※詳しくは日本医労連 ホームページ <http://www.irouren.or.jp/>
 - 締切 5月25日(月)必着
- 医療研究集会の魅力のひとつは、集会2日目の分科会討論です。全国の経験を持ち寄り、テーマ別に「レポート」に基づく討論と交流を行います。

2日目 **6/13** 土 **分科会 9:30~16:00** 鹿児島大学(郡元キャンパス)

1 医療と福祉の現状をふまえ、社会のあり方を考える

～すべての地域で保障される生存権の保障をめざして～
昨年は、医療・社会保障制度の課題、地域の実態調査、無料低額診療の取り組みなどのレポートを受け、地域の医療・介護の現状と課題を話し合いました。今年も、全国の職場・地域の実践を交流しながら学びたいと思います。そして、いつでも、だれでも、お金の心配なくかかれる医療・介護制度の実現をめざす契機としたいと思います。多くの方の参加をお待ちしています。

2 救急医療からみた地域包括ケア

～地域社会での生活を支える在宅系事業(訪問診療・看護・リハビリ)の展開と救急医療～
昨年の分科会では「もう一つの救急医療」をテーマに、在宅での看取りを支える訪問診療・緊急往診が救急医療に他ならない事を確認しました。今回はそれを踏まえて訪問看護・リハビリを加えた在宅系事業を包括的に考えると共に、「住まいを基礎とした地域包括ケアシステム」の確立のために、住民運動を含めた地域連携と医療・介護施設との協力を進める課題について議論します。

3 保健予防活動を地域住民とともに

～健診、地域での健康づくりをすすめるために～
わかっちゃいるけどやめられない!Part2。生活習慣はなかなか変えられない。頑張っても三日坊主で続かない。「職場のダイエットダービー1年間のまとめ」「ゴミ屋敷からの脱却」のレポートを行動科学的に分析し、どうやって成功させたのか。どうすれば行動を変容できるのか、維持できるのかを皆さんと深めたい。

4 看護ケアの質

～専門性を高める～
看護業務のあり方が問われています。看護業務は保助看法に規定された「診療の補助」と「療養上の世話」に基づき行われています。その中で日々現場実践により多くの喜びや、患者自身の支えとなっている業務が「療養上の世話」であり、看護本来の果たす役割であると思っています。この分科会では、日常の実践で頑張っている多くの看護職の人達の現場実践をもとに、看護の質について議論したいと考えています。

5 医療施設と在宅をつなぐケア

～多職種連携で患者を支える～
2014年の診療報酬改定で地域包括システムの構築、在宅医療の充実など、地域連携、多職種連携がより重要となることが明確になりました。今後、私達

はどのように患者さんのニーズに添って、包括ケア、多職種連携していくのか、それぞれの立場で議論を深めましょう。実践報告レポート、当日参加多数お待ちしております。

6 ともに育ちあう職場づくり

～看護・介護の喜びを伝えたい～
どんな看護・介護をめざし、何を大切に日々奮闘しているのか、世代や働く分野を越えて語りましょう。看護・介護本来の仕事ができ、一人一人が健康で豊かに働き続ける一助となるような交流をしましょう。
看護学生の現状を知るミニ学習会も行います。日々の看護・介護実践、職員育成の取り組みなど現場の奮闘が見える実践的なレポート、現場を支える労働組合の活動などを募集しています。

7 医療政策と看護労働

保助看法は「傷病者若しくははじく婦に対する療養上の世話又は診療の補助」を看護師の業務としている。シンプルな定義…しかし、現場の業務は様々な制約のもと、どんどん増えるし煩雑になっていく。夜勤は減らない。「看護師不足」を市場とする紹介業が広がった。そして特定行為。あなたの職場の働きかたはどうですか?現場からのレポートを中心に医療政策について考え討論します。

8 障がい児(者)の権利と心に寄り添う医療・福祉

障害者総合支援法が施行される中で、障害支援区分判定や、計画相談に基づくサービス利用計画作成など、行政・事業所並びに障がい児(者)自身も交え、新たな福祉制度への対応が求められます。
障がい児(者)の権利擁護、福祉サービス、医療、介護はどうあるべきかを考え合うため、幅広い皆さんの参加とレポートをお待ちしています。

9 精神医療・保健・福祉の改善を目指して

我が国では多くの精神障害者が地域で生活する権利を奪われてきました。近年になり退院促進・地域医療へとシフトしてきましたが、今度は認知症患者を長期に抱え込む問題が浮上り福祉と医療の一連の改革運動が必要です。

10 リハビリテーションの現場で求められるもの

医療・介護・福祉の領域でリハビリテーションのニーズは高く、私たちは患者、利用者一人一人の生活がより豊かになるように頑張っています。日々大切にしている取り組み、また社会情勢の変化、制度・報酬の改定と共に変化する職場環境や労働条件について討論し、明日からの実践につなげていきましょう。

11 患者のための臨床検査

命を測る臨床検査の仕事に誇りを持って働き続けるために討論を行っています。分科会は、レポート報告と課題別討論(夜勤問題、採血問題、業務拡大等)を中心に、全国の仲間と経験を共有します。恒例の交流会は、疲れを癒し親睦を深める場として定着しています。皆さんの参加とレポート報告をお待ちしています。

12 病院、介護・福祉施設の給食改善

～治療食・介護食の充実をめざして～
委託やセンター化など、この間様々な課題を抱えながらも努力を積み重ね「給食改善」を行ってきました。嚥下食や介護食、治療食についての成果をこの医療研で交流・研鑽し、自分達の職場に持ち帰って実践に結び付けてきました。しかし、今また新たな課題として病院給食自己負担の大幅な増加がいられています。全国の仲間の経験や工夫、実践の成果を持ち寄って大いに学び合ひましょう!!

13 職場の安全衛生と環境改善

労働組合として取り組んでいる職場の労働安全衛生活動における課題と改善についてのレポート報告を募集します。また日頃の活動における悩みや問題などを持って参加されても結構です。参加者の積極的な討論で解決策と一緒に考えていきましょう。多くの仲間のご参加をお待ちしています。

14 施設介護

2015年の介護報酬改定をうけて現在施設介護は岐路に立っています。そうしたなかでの介護現場での取り組み・実践を中心に、介護することの「難しさ」や「やりがい」を交流・共有し、介護の専門性を追究します。

15 在宅介護

介護保険制度の見直しで、一部のサービスが無資格者・ボランティアのサービスに移行することが決められました。「在宅介護分科会」では、個々の利用者の日常生活を支える視点など、実践を通して検証される在宅サービスの重要性につい

てレポートを発表し、利用者の「その人らしい生活」を支える在宅サービスの専門性を追究します。

16 放射線管理区域内労働者の被ばく、労働条件・待遇問題と原発再稼働問題

放射線管理区域内に勤務する放射線労働者は、医療法や労働安全衛生法令等が被ばく線量を厳しく管理しています。原発事故後、被ばくへの関心が高まり全国の放射線労働者が今どのような状況下で働いているのか?防護・装置管理、被ばく線量や労働条件・危険手当等待遇面は妥当なのか考えます。もう一つは原発問題、福島原発事故の総括も出来てない現状で川内原発再稼働は、私たち国民にどのような影響を与え行動させるのかを考えます。今回も野口邦和(日本大学准教授・福島大学客員教授)先生に福島原発事故の現状等の講演と助言をいただきます。

17 薬と社会

超少子高齢社会を見据えた社会保障制度改革の議論では、薬物療法の高度化や、在宅医療を含む地域医療の進展に対応し、薬剤師が専門職能を発揮することへの社会的期待が増えています。また、医薬品販売における薬学的知見に基づく指導が法律に明記され、薬局での実践に法的責任が問われています。一方で、HPVワクチンによる多数の重篤な被害が明らかになっている問題などもあります。このような中、病棟での実践、地域薬局での取り組み、薬害防止の活動等について、活発に活動を交流し、討議を深めましょう。多くのレポートをお待ちしています。

動く分科会 平和と原発問題を考える

コース 知覧特攻平和会館・川内原子力発電所資料館

鹿児島中央駅西口(8:30発)⇒知覧特攻平和会館など⇒知覧(昼食)⇒川内原子力発電所資料館など⇒鹿児島空港(17:00頃着)⇒鹿児島中央駅西口(18:00頃着)

先着40名:動く分科会参加費は、医療研参加費+5,000円

医療研究全国集会 市民フォーラム

13:00~16:00 鹿児島大学(郡元キャンパス)

広がる格差と貧困 ~子どもの貧困問題を考える~

子どもの貧困対策の充実に向け、社会保障の連続改善をやめさせる運動を広く国民とともにすすめる立場から、子どもの貧困問題を市民とともに考えます。